

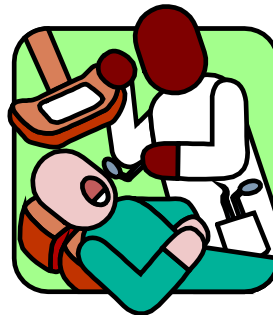
口は健康のもと Vol.117 痛くない入れ歯

単純なのがお勧め

歯を失った人は、一般に入れ歯を使用して食事や話しをすることになりますが、入れ歯を使用しない人が多いのも現実です。その理由は「痛い」からというのが多く挙げられます。

入れ歯には総入れ歯と部分入れ歯がありますが、総入れ歯で痛いのは入れ歯がのっている歯茎（正しくは粘膜）に傷が出来たことによります。その傷は「床ずれ」や「靴ずれ」と同じで「褥瘡性潰瘍（じょくそうせいかいよう）」と呼ばれています。傷ができる原因は、総入れ歯の粘膜に接している部分の鋭縁（凹凸）や総入れ歯自体の動きすぎで粘膜が傷ついたためです。一方、歯が残っている場合に使用する部分入れ歯では、バネをかけた歯の虫歯や歯槽膿漏で歯に痛みを感じます。さらに総入れ歯と同じように粘膜の傷による痛みもあります。

そこで入れ歯が痛くないようにするには、「動かない」、「汚れない」、「壊れない」ものを使用することになります。自分で出し入れする入れ歯は、入れた後に動かないことが歯と粘膜を守ることに繋がります。入れ歯は複雑な形より単純なものが、汚れにくく、清掃しやすく、壊れにくいことになります。入れ歯が痛いと思ったら遠慮せず、歯科医師に相談して下さい。歯科医師は痛くない入れ歯を入れるためにいつも謙虚に対応いたします。



奥羽大学歯学部附属病院
総合歯科 准教授 清野 晃孝

